（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470301090		
法人名	医療法人ほうしょう会		
事業所名	グループホームうの花		
所在地	三重県鈴鹿市石薬師町1096		
自己評価作成日	令和5年2月18日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470301090-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和　5　年　3　月　7　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

石薬師は歌人佐々木信綱生誕の地です。唱歌「夏は来ぬ」に歌われている「うの花」の垣根に囲まれ庭には実のなる木が植えてあり、緑が溢れ、四季の移り変わりを感じる事が出来ます。当施設の運営母体は医療法人の為、常に入居者様の健康管理を行っています。理事長である主治医には24時間相談できる体制を取っており、緊急対応にも万全です。ご縁を頂いた入居者様は、ご希望により終末まで対応させていただいています。法人理念である「人生の先輩としての尊敬の念を持ち、安堵安心を捧げ、真心を持って接する」を職員は日々実践し支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

卯の花の白く可憐な花に囲まれるように、来年20周年を迎える洋風で平屋建ての2ユニットの事業所が建っており、事業所の庭にも実のなる木々や花などが、どの居室からでも眺めるられるように誂えてある。法人理念に基づきグループホームの理念である「笑顔でつくる　やさしさの輪」と三つのお約束を職員全員で作り基礎として更なる利用者中心の支援を心掛けて来た。まずは毎日「イ―ジ―・ウォ―ク」「座・自転車」「滑車」の歩行運動から始まり、「イージー・キューブ「キャップパズル」等の脳トレ、紙芝居や歌による回想法など、レベル低下の緩和にも力を入れて来た。調査終了時、沢山の利用者の前で利用者による紙芝居が行われていた。その声は、その場に居る利用者・職員みんなの心に響くように優しく、実に感動的であり、「利用者の想いに添った支援」を身をもって体験した。利用者の想いが活かされるような支援をしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に職員全員で考えたグループホームの理念を毎日朝礼で唱和し、意識づけ、日々実践している。	両ユニットとも職員のチームワーク、連携や情報共有も良く、理念にそった支援も出来ている。管理者としてまだ新しいが今まで積み上げて来た実績を土台として、「利用者中心の支援」が更に充実するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、運営推進会議でも地域の情報をいただいている。コロナウイルス感染症の為、自由に交流が出来なくなっている。	地域との付き合いは、開設して20年近く最も重要にして来た事のひとつとしている。自治会の役員が、事業所の利用者の為に裏の散歩コースに桜の木を植えてくれるなど、地域に受け入れられている事が伺われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議で認知症の方の対応や日々実践しているケアについて情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には自治会長、民生委員、老人会会長、主治医、地域包括支援センター職員が出席し、日々の取り組みやサービスの内容を説明し、意見交換を行っている。感染拡大防止の為、書面会議となった時は書類をお届けし、FAXでご意見をいただいている。	今年度の開催は2回、書面での開催は4回である。利用状況・行事報告・ヒヤリハット・事故報告に対しての対策等、分かりやすい報告書が作成されている。だが家族からの意見がなく、今後は家族からの意見を吸い上げる方法を模索中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類関係は直接担当者に提出し、その際には事業所の実績や取り組みも伝達している。	行政とは法人である朝川クリニックからの長いつき合いがあり、連携は密に取れている。コロナ禍の今は電話での相談が多いが、運営推進会議への参加や報告書への意見など事業所への強い力となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針やマニュアルに添って「身体拘束をしないケア」を実践している。新任・現任研修を行いスピーチロックにも気を配っている。玄関は夜間以外は自動ドアにしています。	身体拘束等適正委員会、職員への研修についての開催、研修時の資料についての報告書がファイリングされている。その報告書は職員一人ひとりが研修についての気付きや感想、学んだ事などぎっしり書かれており、熱心に取り組んでいる姿が伺える。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画に取り入れて全職員が学習し、日々のケアでも注意を払い、防止に努めている。		

うの花（西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が成年後見人を利用している。今後もご利用者様の状態悪化により成年後見人制度が必要になった場合は適切に対処できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分に取り、書類(契約書、重要事項説明書など)を確認しながら質問をうかがい、丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染対策の為、面会を自粛しているが、毎月のお手紙や電話、LINEでのやり取りでお気持ち等を聞かせて頂いている。	家族から「日々の生活やイベント時の利用者の様子などが動画や電話、手紙にて分かるのがとても嬉しい」とのアンケートが多数来ている。同時に意見や要望も気楽に話し合える関係でもあり、コミニュケーションも取れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で発した職員の意見等を管理者がくみ取り、毎週行っている運営会議で報告し善処している。「リクエストシート」を活用し対処している。	ベテランの職員が多く、気楽に話し合える関係でもあり、毎朝の申し送り時管理者も一緒に意見や要望も言い合える環境が整っている。また支援中も小まめに話し合っているが会議としての記録はない。	「職員会議の開催と記録」が実践されていない。全職員で意見交換する事は貴重な情報源であり、コミュニケーションの場でもある。両管理者と計画作成担当者二人の協力を得ながら実践される事を望む。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課を年2回実施し、職員個々の努力や実績を反映させている。各職員の「やる気」に繋げ、向上心を持って働けるよう職員環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は現任研修計画に沿って実施し、研修レポートを提出してもらっている。外部研修はほとんどがリモート行われており、内容によって職員の希望を聞いて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会の会員になっている。外部の研修会(リモート)での交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の準備として関係機関から様々な情報をいただいてご本人と面談している。その際に困り事や意向などの聞き取りを行うと同時に、言葉では表現できないようなことは表情などから推測できることもあり、しっかり受け止めて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会において困り事や意向の聞き取りを行うとともに、入所に際して後ろめたさを感じておられるご家族には少しでも心の負担が軽くなるような言葉かけを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に関しては本人と家族との意向が合致していないケースがほとんどであるため、在宅生活が継続できる様々なサービスの活用等の提案もおこなった上で入居の判断をしていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の嗜好や得意としていること、残存能力等を見極め、人生の先輩である入居者の皆さまから教わる姿勢での関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策の為面会にお越し頂けてない状況ですが、電話やお手紙、メールやLINEで当所での暮らしの様子をお伝えしながら、本人と家族の絆を大切にし、家族と一緒に本人を支えていき関係を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	LINEを活用し、日々の様子やイベント等の様子を動画に撮って送っている。娘様からも楽しい動画が届くなど、遠くに離れて住む娘様とも関係を保っている。	現在は3ヶ月毎の訪問美容を馴染みとして楽しみにされている。他には家族や友人との電話・手紙のやり取り位である。また、紙芝居や昔の風景のDVDなどを見ながら昔話に花が咲き会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し必要に応じて職員が間をとりもったり、席替えを行うことでご利用者様同士が良好な関係を保てるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談等に応じている。状況を伝えてくださる家族様もいらっしゃる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意向を伝えられる入居者は少なく、日頃の行動や表情、何気ない会話も大切にしている。各職員が得た情報は共有し、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位に支援している。	日々の支援から利用者の思いや意向を汲み取るようにしている。「外へ出たい」との利用者の要望をケアプランに取り入れる為に導入や支援方法など話し合い実践に繋げる等、一人ひとりの思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に過去の生活歴や暮らし方等記入していただくシートを家族に渡し、記入していただき参考にしている。入居後は本人からの何気ない会話等から把握し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの心身の変化に気を付けて支援している。心身の状況はその時により変化するので毎日の記録や申し送り等で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために職員の気づきを大切にしている。毎日の個別記録によりモニタリングチェックを行い、関係者同席で適時カンファレンスを実施し、見直しを行っている。	毎日記入する「個別記録」の下に一人ひとりのケアプランの支援内容が書かれている。評価も兼ねてその支援内容にチェックや意見を記入し、ケアプランに沿った支援を心掛けている。次のケアプランに向けて3ヶ月毎の評価、半年毎のケアプラン作成を基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は計画を記載してある介護記録用紙に毎日の支援を記入している。計画担当者は毎月支援経過を記載すると同時に訪問診療時の医師のコメントや服薬状況も記載し共有できるように個別記録と一緒に綴じており、職員は適時確認し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊や外食、買い物等を要望により実施してきたが、現在は感染症問題があり実施できない状況にある。その代わりに施設内での楽しみ作りに力を入れている。		

うの花（西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪やイベントに参加等、地域の方々の協力を得ていたが、現在は控えなければならない状況にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長である医師が主治医として月2回訪問し診療を行っている。又、治療が必要な時には運営母体のクリニックへ支援を行う。専門外への受診は家族とともに職員が同行し適切な治療を受けられるように支援している。	法人のクリニックが主治医である。各ユニットに月2回の訪問診療があり、実質毎週主治医に会え、また看護師は毎週1回訪問している。緊急時は直接主治医に繋がり、主治医の行動も早く職員の信頼も強い。24時間体制も万全である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は職員としては不在だが、毎週1回クリニックの看護師が入居者全員の健康チェックに来訪している。状態が悪い時や痰吸引時にも対応する他、主治医とのパイプ役として支援している。医療と24時間連絡が取れる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は、主治医より入院先の紹介と詳しい情報の提供があり、安心して治療が受けられる体制にある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応や終末期の支援等を説明している。そのような時が来た場合は主治医と家族、職員が十分に話し合い、看取りの支援を行っている。	今年度は両ユニット合わせて5名の看取りがあった。とても忙しい訪問診療であったが主治医や職員の動きも早く、家族からの感謝を始め、職員の充実感も実感できるなど貴重な看取り体験であった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時事故対応マニュアルに基づき勉強会を行っている。今後も、応急処置や初期対応の訓練を行い、職員の技術、知識の向上を目指す。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の内容として地震、火災等色々なケースを想定し年2回実施している。運営推進会議で自治会の方々にお伝えし、いざという時に支援していただける体制をとっている。	防火管理者を中心に年2回の避難訓練を実施し、消防署へも報告している。今回は水消火器を使っての消火・発動訓練などを行い、備蓄もそろえてある。今後は自治会と協力を取り災害対策に力を入れる予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応にも尊厳の気持ちを持って接している。入居者一人ひとりの生活歴や特性等を把握したうえで人格を尊重し丁寧な言葉で対応している。トイレ誘導時等もプライバシーを損ねないように配慮している。	入居前の生活歴やアセスメントシートから一人ひとりの合った支援を心掛け、特に尊厳には注意している。「親しき中にも礼儀あり」の距離感を保つような支援が出来るよう言葉使いから注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の本心を探ったり、思いや希望が話しやすいような会話を心がけ、又、表情等で思いをくみとれるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の心身の状態に合わせた時間の過ごし方をしてもらっている。起床時間や就寝時間も本人のペースに合わせ、心地よく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常は季節に合った衣服の着用を支援し、お誕生日や行事の時はおしゃれ感を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操に「北原白秋の五十音」や季節の歌で声を出し、食事作りには参加はして頂かないが、おやつレクにて焼き芋、ホットケーキ、大根もちなど利用者と一緒に作り楽しんで頂いている。食事中は穏やかな音楽を流し、ゆったりとした雰囲気で支援をしている。	米飯以外の料理は委託業者からであるが栄養は勿論の事、色どりや多種の食材、味付けなど利用者も「ここは4種類くらいの料理がいつも出る」と満面の笑みで話すなど好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後のコーヒーを毎日楽しみにされている方や飲み物は好みにより用意し、水分量は十分確保できている。管理栄養士が立てた献立で栄養バランスは非常に良い。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残渣物が口腔内に残らないように、毎食後の口腔ケアを行っている。義歯は毎晩洗浄剤を使用し清潔を保っている。自己管理の出来ない方は、その都度職員がブラッシング、口腔スポンジなどで支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録により一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。自らトイレを使用される方には、その方の習慣を活かしてさりげない支援を行っている。	両ユニットで3名のおむつ使用であるが、車椅子でフロアーで過ごす支援をしている。他は布パンツやリハビリパンツ使用であるが排泄パターンを把握しており、尊厳を守る事を念頭に一人ひとりに合った支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行等、運動を勧め身体を動かす支援を行い、野菜が十分な食事内容で配慮し、好みの飲み物をお出しするなど、十分な水分を摂って頂いている。食事や水分は摂取量を記入し不足の方には工夫して提供し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の好みと心身の状況に合わせた支援を行っている。お湯は一人ひとり入れ替え、入浴剤を使用してリラックスして入って頂いています。	事業所の一番の自慢である一人ひとりが一番風呂であるように毎回お湯を替え掃除してからお湯を張っている。入浴剤もその度入れている。また西ユニットをリフト浴にリフォームし、全利用者が湯舟に浸かれるようにする等、利用者の思いに沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状況により支援している。お部屋の温度や照明に配慮し安眠できる環境を作っている。好みのラジオを聴きながらリラックスして休息できるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬がなされるよう服薬管理を行っている。個人別の棚に薬とともに処方箋や薬手帳を閲覧できるよう設置し、薬の副作用、用法用量が確認できるようにしている。新しく処方された薬は内容や副作用などを回覧して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や日課を継続できるような環境づくりを行っている。新聞や雑誌はテーブルに置き自由に読むことができ、居室への持ち込みも可能としている。懐かしい映画、紙芝居など感染対策を十分行いながら適時実施し気分転換を図っている。他季節のイベントも時期に応じて開催している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は感染症対策にて自粛していただいている。季節感を味わっていただけるように少人数ずつで初詣、花見、紅葉などドライブにお連れしている。気候の良い時期は施設周辺の散策に出掛けている。	花見・ドライブなどで外出を楽しんでいる。地域での行事はまだ中止だが、事業所の周りは交通量も少なく緑がいっぱいで、綺麗な空気と光を味わいながら沢山の木々や花などを楽しみながらの散歩も魅力的である。卯の花の白い花に囲まれるのを楽しみにしている。	

うの花（西ユニット）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金制度をとっており、個人的にはお金を所持することはない。施設内で使える通貨を作り、イベントでマーケットを開き、買い物ができる環境を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には施設の電話を使っていただいている。手紙を書きたいとおっしゃる方は現在いませんが、要望があれば支援します。個人で携帯を持っている方は通話やLINEなどの使い方の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて陽当たりの良い空間での生活は、とても居心地が良い。季節感のある壁画に加え、皆さんの笑顔の写真も飾っている。1日中リビングで過ごす方もいらっしゃる。天窓からの採光を浴びながら毎日リハビリも行っている。	両ユニットとも毎月季節を感じる壁面作りを利用者と一緒に行っており、張り合いでもあり楽しみにもなっている。目的は同じだがユニット毎に個性のある壁面になっている。天窓や窓からの明かりやベランダからの眺めも良く、ソファーに座って外を眺めたりと居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は相性の良い方同士でとの配慮より時々見直しつつ指定席を設けている。長椅子やソファーなどの備えで思い思いに過ごしていただける工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電動ベッド、クローゼットは備え付けで用意しているが、後は自宅で使っていた馴染みの物を持ってきていただいている。家族はアルバムを用意したり居室内をきれいに飾り付けたりと、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	どの居室からも実のなる木々や花が見える。また各居室の壁には一畳くらいの大きさに珪藻土が使われており、湿気や匂いの軽減にもなっている。居室内も落ち着いて過ごせるよう利用者の思いに添った個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に生活できるようにと、動線を確保している。ベッドからの勝ち上がり困難な入居者にはL字の手すりを設けている。トイレや居室の場所などはよくわかるように掲示を工夫している。		

うの花（西ユニット）